

長津田駅周辺

古くは東海道の大山街道の宿場町として栄え、明治41年(1908年)には、JR横浜線開通と共に長津田駅も開通しました。JR横浜線と東急田園都市線、横浜高速鉄道ごどもの国線の乗り換え駅として1日約12万人の乗客数があり、市の主要な交通拠点となっています。

長津田の歴史とこもれびの道コース

Aコース(4.4km)

長津田駅南口 → 大林寺 → 王子神社 → 福泉寺 → 天王社 → 二十三夜塔 → (大山街道) → 長坂夜雨 → 大石神社 → 御立落雁 → 長津田駅

Bコース(5.0km)

長津田駅 → 随流院 → 大林寺 → 玄海田公園・長月飛蛩 → 長津田みなみ台公園・住撰夕照 → 下長津田神社 → 下宿晴嵐(下宿常夜燈) → 長津田駅

GUIDE



1 大林寺

大林寺は、江戸時代に旗本岡野家の菩提寺として建立され、平成20年に再建されました。鐘楼は夕靄に包まれた鐘の音を表現しています。



2 王子神社

大石神社とともに長津田の鎮守である王子神社には、境内へ続く階段の前に樹齢310年を越えるといわれる横浜市指定したモミの名木があります。また、6月晦日(みそひ)の夏祭りに行われる茅の輪くぐりは有名で、この茅の輪をくぐると災厄を免れるとして信仰をあつめています。社の裏手にも樹木が多く良好な環境を保っています。



3 福泉寺

慶安2年(1649年)に徳川家光より朱印四石五斗を得て、祈禱寺として栄えました。寺内の戒壇巡りがおもしろいです。階層のなか手すりを頼りに進み、ご本尊と結ばれた天国への鉄の輪を叩いてみましょう。



4 長坂夜雨(ながさかやう)

大山街道は、次第にその道筋を変え、長坂は現在の国道から取り残されました。昔の矢倉沢往還の雰囲気や今に僅かなりとも伝える場所も一部残る。江戸時代、旅人が雨の中を歩く様子を連想させます。



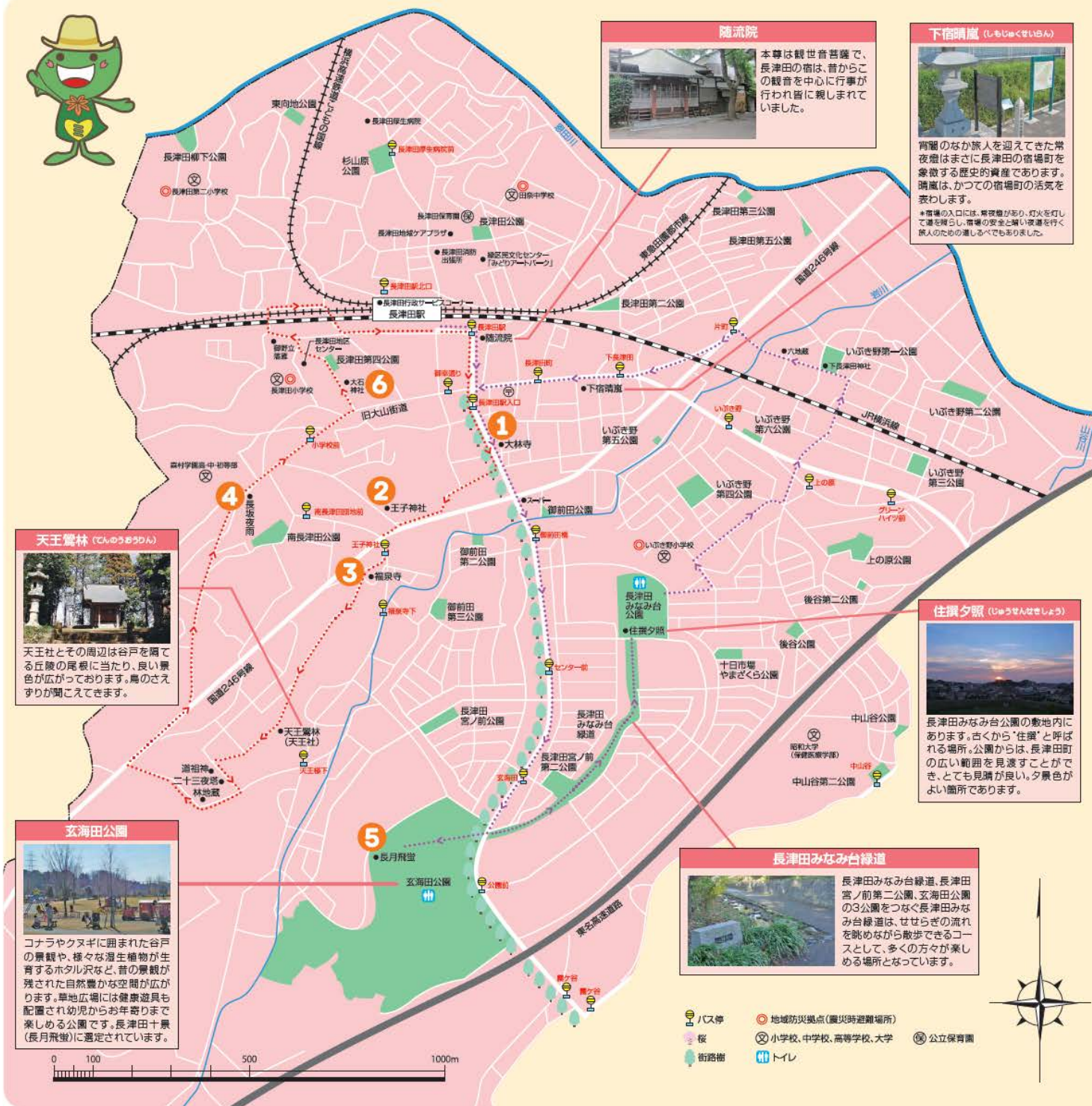
5 長月飛蛩(ちやうげつひけい)

玄海田公園の敷地内にあり、この谷戸地は、自然景観保全の中心的な役割となっています。古いものと新しいものが交錯しています。



6 大石神社

大石神社は、江戸時代に大山街道の宿駅として栄えた長津田にあり、この地の鎮守となっています。境内に続く坂の途中にある上宿常夜燈が有名です。宿の名残を感じさせる一方で、境内には横浜市指定のモミとシラカシの名木に並んで桜が輪えてあり、春には見事な花を咲かせます。



随流院

本尊は観世音菩薩で、長津田の宿は、昔からこの観音を中心に行事が行われ皆に親しまれていました。

下宿晴嵐(しもじやくせいらん)

宵闇のなか旅人を迎えてきた常夜燈はまさに長津田の宿場町を象徴する歴史的遺産であります。晴嵐は、かつての宿場町の活気を表わします。

*宿場の入口には、常夜燈があり、灯火を打って道を照らし、宿場の安全と静い夜道を歩く旅人のための通しるべでもありました。

天王堂林(てんのうどうりん)

天王社とその周辺は谷戸を隔てる丘陵の尾根に当たり、良い景色が広がっております。鳥のさえずりが聞こえてきます。

玄海田公園

コナラやクスギに囲まれた谷戸の景観や、様々な湿生植物が生育するホタル沢など、昔の景観が残された自然豊かな空間が広がります。草地広場には健康遊具も配置され幼児からお年寄りまで楽しめる公園です。長津田十景(長月飛蛩)に選定されています。

住撰夕照(じゆせんせきしょう)

長津田みなみ台公園の敷地内にあります。古くから「住撰」と呼ばれる場所。公園からは、長津田町の広い範囲を見渡すことができ、とても見晴がよい。夕景色がよい箇所でもあります。

長津田みなみ台緑道

長津田みなみ台緑道、長津田宮ノ前第二公園、玄海田公園の3公園をつなぐ長津田みなみ台緑道は、せせらぎの流れを眺めながら散歩できるコースとして、多くの方が楽しめる場所となっています。

- バス停
- 桜
- 街路樹
- 地域防災拠点(震災時避難場所)
- 小学校、中学校、高等学校、大学
- 公立保育園
- トイレ

